

富山県福光町

県営ほ場整備事業(担い手育成型)に係る
埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書
—北山田南部地区—

2003年3月

福光町教育委員会

序

福光町の北東部にある北山田南部地区は、山田川左岸の河岸段丘上に位置します。

近年の様々な開発事業に伴い調査が行われ、縄文時代から中世までの様々な遺跡が発見され、多くの歴史遺産が埋蔵されていることがわかりました。

今回の調査は、県営ほ場整備事業（担い手育成型）の実施に伴う北山田南部地区の試掘調査です。当地区におけるほ場整備事業関連の遺跡試掘調査は平成10年度から始まり、遺跡の遺存状況を確認するために事業対象区内のすべての遺跡について試掘調査を実施してきました。本書は、その調査結果をまとめたものであり、郷土の歴史解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。

この調査の実施にあたり、富山県埋蔵文化財センター・福光町シルバー人材センター・富山県農林水産部・ほ場整備事業北山田南部地区委員会をはじめ、地元住民の方々に多大なご協力を賜りましたことに対し、深く感謝するものであります。

平成15年3月

福光町教育委員会

教育長 石崎栄一

例　　言

1. 本書は、富山県西砺波郡福光町北山田南部地区における埋蔵文化財包蔵地の試掘調査報告である。
2. 調査は、県営は揚整備事業（担い手育成型）に先立ち、富山県農林水産部の委託を受け、福光町教育委員会が実施した。
3. 調査事務局は、福光町教育委員会生涯学習課に置いた。平成10年度は文化係長 森田智之、文化係主任 佐々木隆が調査事務を担当し、課長 西村勝二が総括した。平成11年度は文化係長 森田智之、文化係主任 佐々木隆が調査事務を担当し、課長 中島英二が総括した。平成12年度は指導文化係長 森田智之、指導文化係主任 佐藤聖子、深田亜紀が調査事務を担当し、課長 中島英二が総括した。平成13年度は指導文化係長 石黒久尚、指導文化係主任 佐藤聖子、深田亜紀が調査事務を担当し、課長 中島英二が総括した。平成14年度は指導文化係長 石黒久尚、指導文化係主任 佐藤聖子、片田恵紀が調査事務を担当し、課長 加藤信行が総括した。
4. 試掘調査は、平成10年度から平成14年度までの5年間で、平成10年度から平成13年度までの試掘調査については富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を受けた。また分布調査は、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を受け、富山大学考古学研究室の協力を得た。調査の期間・面積・担当者等の詳細は本文を参照されたい。
5. 本書の編集・執筆及び資料の整理は、福光町教育委員会生涯学習課指導文化係主任 佐藤聖子、片田恵紀、同係嘱託 西村倫子が行った。
6. 資料整理期間中、下記の方々から協力・助言を得た。記して謝意を表する。
太崎勇・南保久夫・林敏三・宮田進一・山田政寛・山村明夫（敬称略・五十音順）
7. 発掘作業員の確保については、福光町シルバー人材センターの協力を得た。また調査にあたっては、地権者並びに地元の方々に多大な協力を得た。記して謝意を表する。
8. 本書で使用した方位は真北である。土層の確認には、小出正忠・竹原秀雄編著1967「新版標準土色帖」日本色研株式会社を用いた。
9. 発掘調査・遺物整理・報告書作成業務の参加者は次の通りである。
木戸一代・竹治由佳里・西川和美・安田富子（整理作業員）

目 次

| | | | |
|-------------------------|----|----------------------------|----|
| I 位置と環境 | 1 | 第16図 徳成遺跡の遺物(1)..... | 21 |
| 第1図 位置と周辺の遺跡..... | 1 | 第17図 徳成遺跡の遺物(2)..... | 22 |
| II 調査に至る経緯と分布調査の概要 | 2 | 第18図 徳成 II 遺跡の遺物(1)..... | 23 |
| 第1表 分布調査一覧..... | 2 | 第19図 徳成 II 遺跡の遺物(2)..... | 24 |
| III 試掘調査の経過 | 3 | 第20図 東殿遺跡・東殿 II 遺跡の遺物..... | 25 |
| 第2表 試掘調査一覧..... | 3 | 第21図 東殿 III 遺跡の遺物(1)..... | 26 |
| 第2図 試掘調査対象範囲..... | 4 | 第22図 東殿 III 遺跡の遺物(2)..... | 27 |
| IV 試掘結果 | | 第23図 東殿 IV 遺跡の遺物..... | 28 |
| 1. 徳成遺跡..... | 5 | 図版1 徳成遺跡 | |
| 第3図 徳成遺跡の基本層序図..... | 5 | 図版2 徳成 II 遺跡(1) | |
| 2. 徳成 II 遺跡..... | 6 | 図版3 徳成 II 遺跡(2) | |
| 第4図 徳成 II 遺跡の基本層序図..... | 6 | 図版4 東殿遺跡 | |
| 3. 東殿遺跡..... | 7 | 図版5 東殿 II 遺跡 | |
| 第5図 東殿地区地籍図..... | 7 | 図版6 東殿 III 遺跡(1) | |
| 4. 東殿 II 遺跡..... | 8 | 図版7 東殿 III 遺跡(2) | |
| 第6図 東殿 II 遺跡基本層序図..... | 8 | 図版8 東殿 IV 遺跡 | |
| 5. 東殿 III 遺跡..... | 8 | 図版9 徳成遺跡の遺物(1) | |
| 第7図 東殿 III 遺跡基本層序図..... | 8 | 図版10 徳成遺跡の遺物(2) | |
| 6. 東殿 IV 遺跡..... | 9 | 図版11 徳成 II 遺跡の遺物(1) | |
| 第8図 東殿 IV 遺跡基本層序図..... | 9 | 図版12 徳成 II 遺跡の遺物(2) | |
| V まとめ | 10 | 図版13 徳成 II 遺跡の遺物(3) | |
| 第3表 遺跡総括..... | 11 | 図版14 東殿遺跡・東殿 II 遺跡の遺物 | |
| 参考文献 | 11 | 図版15 東殿 II 遺跡・東殿 IV 遺跡の遺物 | |
| 第9図 北山田南部地区 | | 図版16 東殿 III 遺跡の遺物(1) | |
| 試掘調査による遺跡範囲図..... | 13 | 図版17 東殿 III 遺跡の遺物(2) | |
| 第10図 徳成遺跡概要図..... | 15 | 図版18 東殿 III 遺跡の遺物(3) | |
| 第11図 徳成 II 遺跡概要図..... | 16 | 報告書抄録 | |
| 第12図 東殿遺跡概要図..... | 17 | | |
| 第13図 東殿 II 遺跡概要図..... | 18 | | |
| 第14図 東殿 III 遺跡概要図..... | 19 | | |
| 第15図 東殿 IV 遺跡概要図..... | 20 | | |

I 位置と環境

富山県福光町は、石川県金沢市との県境をなす富山県の西南部端に位置する。町の西側から南側にかけては、養老三年（719年）、泰澄大師によって開山されたと言われる雲峰医王山をはじめとする山脈が連なる。町の南側に位置する上平村との境にある大門山に源を発する小矢部川が、その支流とともに平野部を形成する。市街地は主に小矢部川沿いに展開し、小矢部川とその支流である山田川にはさまれた段丘には小河川が縱横に走り、それらを利用した田地が広がる。

北山田南部地区は、山田川左岸、河岸段丘上に位置する。このあたりは小矢部川の侵食を受けて台地となつたところで、西方の麓には大井川が流れている。現況は主に田地・畑地である。山田川を隔て、砺波平野を一望できる微高地に立地し、台地末端から河川域までの比高差は2m前後を測る。

北山田南部地区には、徳成遺跡、東殿遺跡、東殿II遺跡、東殿III遺跡、東殿IV遺跡が存在する。近年の調査で、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡や中世の建物跡が数多く発見されている。周辺には梅原胡摩堂遺跡が所在し、古くから交通の要衝であったと考えられる。北山田一帯は古くから大規模な集落が営まれていたことがわかる。

文献資料では、福光町の一部が砺波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれ



第1図 位置と周辺の遺跡 (S=1:25,000)

官倉が置かれていたことが知られる。その後11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山山郷の一部に比定される。

(西村倫子)

II 調査に至る経緯と分布調査の概要

(1) 調査に至る経緯

平成8年(1996年)、福光町北山田南部地区において県営は場整備事業(扣い手育成型)が策定された。この事業は、農地を扣い手に集積し経営規模を拡大させることで低コスト化農業を目指し、田の大区画化による基盤整備を行うものである。事業区である福光町北山田南部地区は、徳成、東殿、利波河及び高畠と宗守の一部を含む地区からなり、事業区域面積は約95haである。事業計画では、平成10年度から平成14年度までを工期としていた。しかし、事業区内には徳成遺跡、東殿遺跡の周知の埋蔵文化財包蔵地が存在し、山田川左岸の河岸段丘上の安定した地盤が広がっていることから、事業区内にさらに未確認の遺跡が広がっている可能性が考えられた。そこで、町教育委員会では事業区内での埋蔵文化財包蔵地の有無、遺存範囲、遺存状況を把握し、その保存措置を講ずるため、詳細分布調査を平成8年12月に実施した。

(2) 分布調査の概要

詳細分布調査は、町教育委員会が県埋蔵文化財センターから職員の派遣を受け、また富山大学人文学部考古学研究室の協力を得て行った。調査は、まず最初に調査員が事業区内の全ての田畠を踏破し、現況の田畠の表面にあらわれている遺物破片を採取し、その位置を図面に記録した。この図面から、遺物の散布状況のまとまりを把握し、周辺地形、古地図、伝承等も考慮し、遺跡の有無、遺跡範囲を確定していった。

事業区内におけるそれまでの周知の埋蔵文化財包蔵地には、徳成遺跡、東殿遺跡があった。この詳細分布調査の実施により、新たに4つの遺跡を確認し、その範囲は事業区内の3割にあたる26haに及んだ。遺物の散布は、事業区東側に流れる山田川の氾濫原にあたる低地では確認できなかつたが、河岸段丘上の現在の民家が集中する中央部周辺で確認した。

新たに発見された遺跡には、徳成Ⅱ遺跡、東殿Ⅱ遺跡、東殿Ⅲ遺跡、東殿Ⅳ遺跡がある。徳成Ⅱ遺跡は徳成地内、事業区内南東寄り、徳成遺跡の東側に位置する。東殿Ⅱ遺跡は東殿地区と宗守地区の境に位置する。事業区境界まで遺物の散布を確認していることから、さらに事業区外北側にまで遺跡が広がっている可能性がある。東殿Ⅲ遺跡は、事業区中央部北側、東殿地区内に位置する。東殿Ⅳ遺跡は、事

第1表 分布調査一覧

| 期間 (実働日数) | 調査担当者 | 対象面積 (m ²) | 遺跡推定地名 | 遺跡推定面積(m ²) | 探集遺物 | 遺跡番号 |
|--------------------------|--|---------------------------|--------|-------------------------|--------------------------------|--------|
| H8.12.10 ～11 (2回間) | 福光町教育委員会 主事 佐藤聖子 富山県埋蔵文化財センター 課長 富田進一 主任 安怠幹鈴 文化財保護士 池田恵子 | 950,000 | 徳成 | 52,250 | 織文土器、須恵器、珠洲、近良四磁器 | 421194 |
| | | | 徳成Ⅱ | 92,222 | 土師器、須恵器、珠洲、青磁、瀬戸美濃、唐津、その他近世陶磁器 | 421274 |
| | | | 東殿 | 29,450 | 織文土器、土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器 | 421192 |
| | | | 東殿Ⅱ | 21,587 | 土師器、須恵器、珠洲 | 421271 |
| | | | 東殿Ⅲ | 18,950 | 土師器、須恵器、珠洲 | 421272 |
| | | | 東殿Ⅳ | 42,700 | I簡器、須恵器、珠洲、伊万里、その他近世陶磁器 | 421273 |
| 遺跡推定面積合計 | | | | 257,159 | | |

業区中央を南北にはしる町道高畠利波河線の東西に広がる。なお、事業区内南側、城端町との町境に位置する利波河地区では、船着き場があったという伝承もあるが、遺物の散布は認められなかつたことから、遺跡の広がりは無いと認識した。遺物の散布分布調査の詳細については第1表、分布調査により試掘調査対象となった範囲は、第2図のとおりである。

(佐藤聖子)

III 試掘調査の経過

(1) 試掘調査の経過

分布調査の結果、広範囲に渡って遺跡の散布地を確認したため、遺跡範囲と遺存状況を把握し、保護措置を講ずる必要がでてきた。そこで県農地林務部、地元土地改良区と協議し、工事の優先箇所から試掘調査を実施した。試掘調査の期間は平成10年度から平成14年度までの5カ年であり、各年度の調査遺跡および調査対象面積は第2表のとおりである。

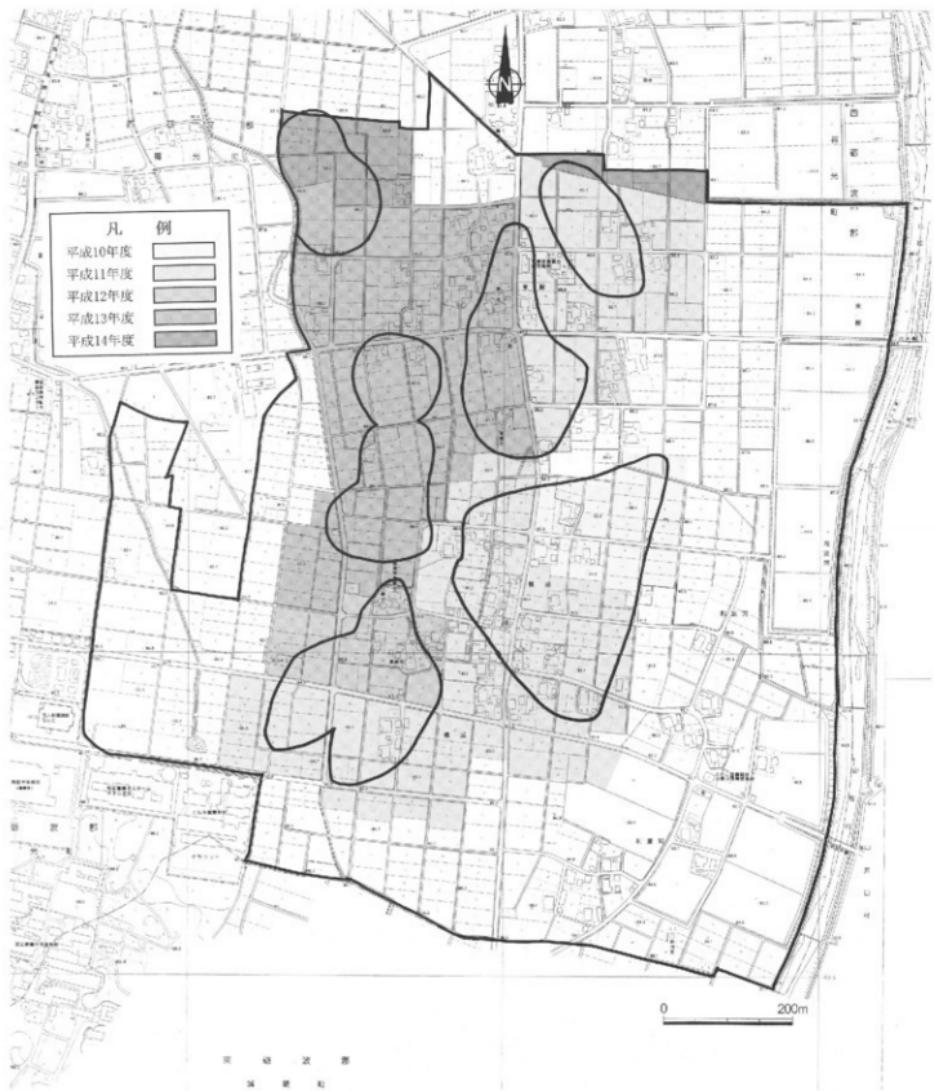
(2) 調査の方法

調査は、重機（バックホウ）で地表面から地山面まで、幅約1.2mの試掘トレーナーを田1枚に1～2本設定して掘削した。トレーナー断面と地山面は人力で精査し、調査員が分層・遺構検出と記録写真の撮影を行った。トレーナー断面の土層図と遺構平面図は調査補助員が1:100で手尖測した。標高を基準とした水系張りとトレーナー平面位置測量は業者委託した。試掘トレーナーは記録作業が終わりしだい、重機で埋め戻した。また重機の進入が困難な箇所については、人力で田に4～5箇所づゝ掘りをし、遺存状況を確認した。

(片田亜紀)

第2表 試掘調査一覧

| | 期間 (実働日数) | 調査担当者 | 遺跡推定地名 | 対象面積 (m ²) | 発掘面積 (m ²) | 遺跡遺存面積 (m ²) | 備考 |
|--------|--|----------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|----|
| 平成10年度 | H10.10.5～11.6 (19日間) | 福光町教育委員会 主事 佐藤聖子 | 徳成Ⅱ | 34,000 | 1,291 | 15,400 | |
| | | 小計 | | 34,000 | 1,291 | 15,400 | |
| 平成11年度 | H11.5.6～6.10 H11.8.30～11.25 (70日間) | 福光町教育委員会 主事 佐藤聖子 嘱託職員 中井英策 | 徳成Ⅱ 東殿Ⅲ 東殿Ⅳ 徳成 | 81,300 57,700 12,700 62,800 | 3,301 2,302 689 3,128 | 47,900 44,100 12,700 11,600 | |
| | | 小計 | | 214,500 | 9,420 | 116,300 | |
| 平成12年度 | H12.11.29～12.5 (5日間) | 福光町教育委員会 主事 佐藤聖子 主事 深田華紀 | 徳成 | 37,670 | 695 | 25,963 | |
| | | 小計 | | 37,670 | 695 | 25,963 | |
| 平成13年度 | H13.5.7～5.11 H13.10.9～11.29 (40日間) | 福光町教育委員会 主事 佐藤聖子 主事 深田華紀 | 東殿 東殿Ⅱ 東殿Ⅳ | 61,090 30,500 49,600 | 3,342 965 2,480 | 45,392 28,662 39,600 | |
| | | 小計 | | 141,190 | 6,787 | 113,654 | |
| 平成14年度 | H14.10.15～10.30 (8日間) | 福光町教育委員会 主事 佐藤聖子 | 東殿Ⅱ 東殿Ⅲ | 24,400 10,000 | 796 155 | 12,854 2,475 | |
| | | 小計 | | 34,400 | 951 | 15,329 | |
| | 計 | | | 461,769 | 19,144 | 286,646 | |



第2図 試掘調査対象範囲 (S = 1:7,500)

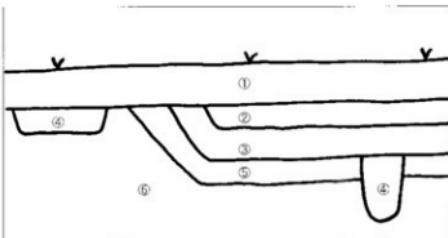
IV 試掘結果

各遺跡のトレンチ設置状況、遺構の検出状況については別図第9～15図を参照されたい。なお、遺跡範囲内であるが削平を受けて遺存しない箇所は、薄いトーンで表示した。

1. 德成遺跡

(1) 概況と層序 (第9・10図、図版1)

徳成遺跡は北山田南部地区の南西寄り、徳成地内に位置している。遺跡範囲は、町道高宮利波河線を境に南北に広がっている。遺跡の東側には徳成Ⅱ遺跡、北側には東殿遺跡が存在している。当遺跡は、縄文時代中・後期の遺跡として周知されており、遺跡内の真教寺では縄文時代中期の石棒を所蔵している。



第3図 徳成遺跡の基本層序図

遺跡内全域において、縄文時代の遺物包含層か遺構が広がっている。また数は少ないが、所々で古代、中世の遺物が出土している。基本層序は、1層：耕作土、2層：灰褐色土（整地層）、3層：黒色土（縄文の遺物包含層）、4層縄文時代の遺構、5層：褐色土（漸移層）、6層：黄褐色粘質土（地山）である。縄文時代の遺構は、縄文時代の遺物包含層から切り込んでいるものと、削平を受けたためか耕土直下で確認するものがある。

(2) 遺構

縄文時代中・後期の上坑、溝、ピット、古代、中世の溝、ピットを検出した。遺跡南側では、遺物包含層、遺構とも良好な保存状況を保っている箇所が多く、耕土直下で地山が露出している所が遺構検出面となっている箇所は少なかった。また町道高宮利波河線の際は南北とも、道路改良の際に削平されている箇所が多かった。遺跡北側では、遺物包含層が遺存している箇所が少なく、耕土直下で縄文の遺構を検出する箇所が多く見受けられた。

(2) 遺物 (第16・17図、図版9・10)

石斧、縄文土器、須恵器、土師器、中世土器、珠洲などが出土している。

縄文時代の遺物

1～11は縄文土器である。1、2は深鉢口縁部である。3～6、8は鉢、12、13は磨製石斧である。

時期は、いずれも中期後半から後期にあたる。

古代の遺物

14、15は土師器・甕の口縁部である。16は須恵器・蓋である。

中世の遺物

17～19は中世土器・皿である。いずれも非ロクロ成形である。20は土器・皿底部である。

(佐藤聖子)

2. 德成II遺跡

(1) 概況と層序 (第9・11図、図版2・3)

徳成II遺跡は事業区南東寄り、徳成地内に位置している。北側には東殿IV遺跡、西側には徳成遺跡が隣接している。基本層序は、1層：(耕作土)、2層：褐灰色粘質土(近世以降の堆積層)、3層：黒褐色粘質土(中世の遺物包含層)、4層：灰褐色土(古代の遺物包含層)、5層：黄色褐色粘質土(地山)である。また、図示していないが、ごく一部の箇所で縄文の遺物包含層、及び縄文時代の遺構や、茶褐色粘質土である縄文時代の遺物包含層を確認している。

(2) 遺構

古墳時代の土坑、ピット、古代、中世の柱穴列、溝、土坑等を検出した。古墳時代の遺構は、遺跡の中央部分でのみ確認しており、遺跡内全体には広がりを見せていない。古代の遺構は遺跡南側に多く、須恵器片などの遺物を多く含む溝や、土坑を確認している。さらに、平成12年度に実施した本調査では7、8世紀の掘立柱建物、溝、焼土を多く含む土坑などを確認している。中世の遺構は遺跡中央部から北側にかけて多く、14年度本調査を行った遺跡中央部東寄りの箇所では12世紀の掘立柱建物を確認した。また、遺跡の北側、町道高畠利波河線の西側では、遺物包含層、遺構とも良好な保存状況を保っている。

(3) 遺物 (第18・19図、図版11～13)

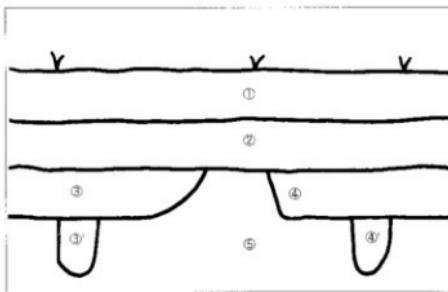
古墳土師器、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、瀬戸、青磁、白磁、越中瀬戸、土師質土器、肥前系陶磁器、瓦器が出土した。

古墳時代の遺物

23、24は高杯の皿、脚部である。25～27は甕である。25は完形で、口径15cm、器高約18cmを測る。26、27は口縁部が直立している。いずれも古墳時代前期にあたる。

古代以降の遺物

29～31は須恵器・杯の口縁部、32、33は土師器・甕の底部である。34～39は須恵器・蓋、40～48は須恵器・杯、49、50は須恵器・壺の口縁部、51は脚部、52、53は須恵器・壺の底部である。いずれも8世紀から9世紀に属する。54は、土師器・椀、55、56は中世土師器・皿である。57は青磁・椀、58は珠洲・すり鉢である。



第4図 徳成II遺跡の基本層序図

(佐藤聖子)

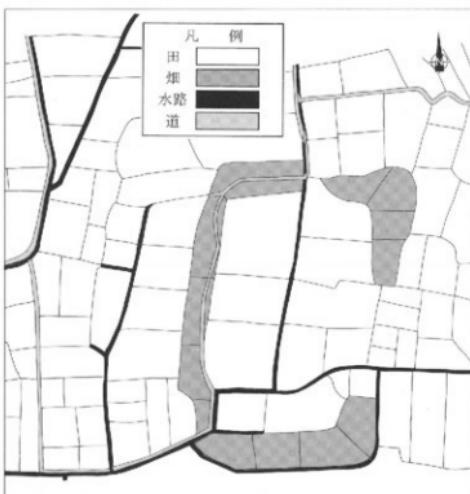
3. 東殿遺跡

(1) 概況と層序 (第9・12図、図版4)

東殿遺跡は北山田南部地区・東殿地内の東側に位置する。遺跡の周辺には、北側に東殿II遺跡、北東側に東殿III遺跡、東殿IV遺跡、南東側に徳成II遺跡、南側に徳成遺跡が所在する。

分布調査では、主に中世の遺物を採集した。地区に残る地籍図によると土壙跡と思われる箇所が畑として使用されている。試掘調査では、土壙跡と思われる遺構を検出しており、地籍図に記された場所ともほぼ一致している。

出土遺物には古代、中世、近世のものがある。古代の遺構を検出しているが、遺跡の南西部部分のみであり、遺跡の時代は、中世が中心となる。



第5図 東殿地区地籍図 (明治8年の地図をもとに作成)

層序は、1層：(耕作土)、2層：

褐色粘質土 (近代以前の堆積層)、3層：黒褐色粘質土 (中世の遺物包含層)、4層：黒色粘質土 (古代以前の堆積層)、5層：黄褐色粘質土／砂質土 (地山) である。4層は南西部にのみ堆積している。

(2) 遺構

柱穴、土坑、溝、土壙跡 (推定) を検出した。

(3) 遺物 (第20図、図版14)

土師器、珠州、瀬戸美濃、八尾、青磁が出土している。

古代の遺物

59～60は土師器・皿である。

中世の遺物

61～67は土師器・皿である。62～64、66は、遺跡の中央東側で検出した土壙跡からの出土である。66は口径約25cmの大型の皿である。68は土師器・椀である。69は瀬戸美濃・盤である。70は青磁・椀である。

(片田唯紀)

4. 東殿II遺跡

(1) 概況と層序 (第9・13図、図版5)

東殿II遺跡は北山田南部地区・東殿地内の北側に位置する。遺跡の周辺には、南側に東殿遺跡、東側に東殿III遺跡、東殿IV遺跡が所在する。分布調査では、古代、中世の遺物を採集した。遺跡の時代は中世である。

層序は1層：(耕作土)、2層：(近世以降の堆積層)、3層：黒褐色土 (中世の遺物包含層)、4層：

黄褐色粘質土（地山）である。

② 遺構

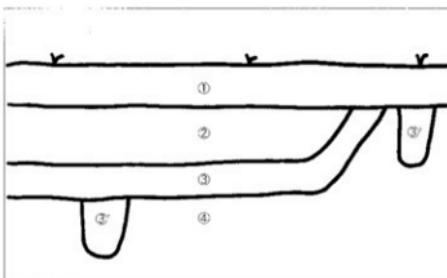
柱穴、上坑、溝を検出した。

③ 遺物

（第20図、図版14・15）
土器類、珠洲、瀬戸、青磁が出土した。

中世の遺物

71～73は土器器・甕である。内外面ともに縦方向のハケ調整を施す。74～76は土器器・皿である。77は土器器・椀である。78、79は珠洲・すり鉢である。80は瀬戸・天目茶碗である。



第6図 東殿II遺跡の基本層序図

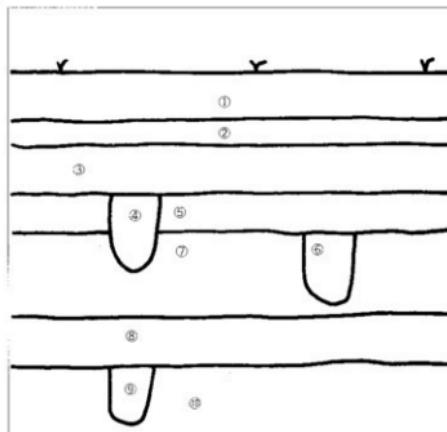
（片田亜紀）

5. 東殿III遺跡

① 概況と層序

東殿III遺跡は、事業区北側境の東殿、高畠地内に位置する。西側の旧流路を境に東殿IV遺跡と接している。遺跡の東側から山田川までは、地形が一段低くなっている。この箇所は山田川の氾濫原であり、ここからは遺物包含層、遺構とも確認しなかったことから、遺跡範囲から外した。

基本層序は、1層：灰褐色粘質土（耕作土）、2層：近代以降の堆積土、3層：黒褐色粘質土（中世の遺物包含層）、4層：中世期の遺構、5層：灰褐色粘質土（古代の遺物包含層）、6層：古代期の遺構、7層：黄褐色土（無遺物層）、8層：茶褐色粘質土（縄文中期の遺物包含層）、



第7図 東殿III遺跡の基本層序図

9層：縄文時代中期の遺構、10層：黄褐色粘質土（地山）となる。遺跡内において、遺物包含層、遺構とも、耕土直下に遺存している箇所が多い。縄文と古代、縄文と中世、生活面が2層重なっている箇所が、部分的に存在する。

② 遺構

縄文時代中期の土坑、焼土、炉跡、古代の土坑、溝、ピット、中世の柱穴列、土坑、溝を確認している。縄文時代の遺物包含層は遺跡中央部に位置するが、遺跡全体に広がっているものではない。黄茶褐色粘質土に鉄分や燒土が混じったもので、黄褐色粘質土である地山とは識別が困難である。包含層が遺存している高さが、現況の田面より約80cm～1mと深い箇所に位置する。この包含層から切り込んでいる縄文遺構も、遺跡中央部にのみ存在する。炉跡は遺跡中央部東寄りで検出した。20～30cmの大石で組まれた長方形を呈している。炉跡内からは、縄文時代後期の深鉢が出土している。このが

跡の周辺には、炭、焼土を多く含む50cm大の土坑を確認した。しかし、竪穴住居など集落の一端を担っていると考えられるものは確認できなかった。また別の箇所でも、焼土とそれに伴う縄文時代中期の土器破片を確認した。

古代の遺構には土坑が目立ち、須恵器甕などの遺物が多く出土した。遺跡の南側での確認が多かった。中世の遺構には、遺跡の北側で多くみられ、溝、ピットなどがあったが、孤立柱建物などの集落の一端は垣間見えなかった。

(3) 遺物（第21・22図、図版16～18）

縄文土器、石斧、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、青磁、近代の陶磁器がある。

縄文時代の遺物

81～88は縄文土器である。81は波状口縁の深鉢で、頂部下を穿って貫通させており、口縁外面には2、3条の沈線を施している。83、84は深鉢口縁部と底部である。83は口径約26cmを測る。83、84とも外面全体には縄文を施している。86は鉢の口縁部である。85はミニチュア土器の底部か。88は深鉢の底部である。時期はいずれも縄文時代中期後半から後期にあたる。

古代の遺物

89は土師器・甕の底部である。90～97は須恵器である。90、91は杯、92～94は高台杯である。95、96は杯蓋、97は甕である。時期は8世紀後半にあたる。

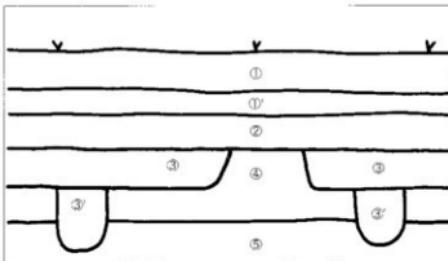
中世の遺物

98、99は中世土師器皿である。いずれも非ロクロ成形で12、13世紀に属する。101は珠洲・甕の口縁部破片である。
(佐藤聖子)

6. 東殿IV遺跡

(1) 概況と層序（第9・15図、図版8）

東殿IV遺跡は、事業区の中央、町道高島利波河線を挟んで東西に位置する。遺跡の南東側で東殿III遺跡、西側で東殿遺跡、東殿II遺跡、南側で徳成II遺跡と近接する。基本層序は、1層：耕作土、1'層：床土、2層：オリーブ褐色粘質土（盛土）、3層：黒褐色粘質土（古代、中世の遺物包含層）、3'層：古代期の遺構、



第8図 東殿IV遺跡の基本層序図

4層：黄褐色粘質土（地山1）、5層：黄褐色砂礫層（地山2）となる。遺物包含層、遺構とも、耕土直下に遺存している箇所が多い。

(2) 遺構

古代の溝、土坑、ピット、中世のピット、近代以降の流路跡などが検出されている。

遺跡の中央北東部側で古代の遺物包含層に伴い、土坑、溝、ピットを確認した。

(3) 遺物（第23図・図版15）

古代の遺物

102、103は須恵器・蓋である。104～118は、古代土師器である。104、105、107、108は、甕の底部である。106、109は、土師器・皿である。110、111は、土師器・甕の口縁部である。112、

113、116～118は甕の底部である。底径が6～7cmを測るものが多い。119～121は、須恵器・壺の底部、121は甕の口縁部である。121は口径20cmを測る。

(佐藤聖子)

V まとめ

1. 徳成遺跡は、縄文時代中・後期を主体とし、古代、中世期まで存続した集落であることがわかった。昭和53年に町道高宮利波河線改良に伴い調査が実施されていたが、今回の試掘結果から遺跡範囲は若干拡大した。北山田南部地区においては昭和30年代には場整備が実施されており、この当時の施工で遺跡が削平され、現況の耕土直下、浅い箇所で遺構を確認する箇所が多かった。周辺の縄文時代の遺跡には、西側で縄文時代中・後期の竹林遺跡、山田川を挟んで東側には、富山県の縄文時代晚期の土器指標ともなっている井戸村井戸遺跡が存在する。
2. 徳成Ⅱ遺跡は、古代、中世を主体とする。縄文土器破片をわずかながら確認した箇所もあったが、遺物包含層、遺構は見受けられなかった。古墳時代については、遺跡中央部で検出した上坑のみであり、広がりは確認できなかった。古代の遺構は遺跡の南側、中世の遺構は中央部から北側に集中していることから、集落は古代期に南側に発生し、中世にかけて北側へ移動していったものと考えられる。
3. 東殿遺跡は部分的に古代の遺構があるが、中世が主体となる集落遺跡である。遺跡の中央東側では広範囲に渡り土塁跡が遺存している。
4. 東殿Ⅱ遺跡は中世を中心とした遺跡である。縄文土器や古代の須恵器・土師器も出土しているが、その点数はわずかであり、遺構も検出していない。
5. 東殿Ⅲ遺跡は古代を主体に、縄文時代中期から中世まで続く集落遺跡である。縄文時代の遺構は、遺跡の中央部にしか存在しない。この縄文時代の遺構と古代、中世の遺構は2面重なって遺存する箇所もある。遺跡の北側、東殿地区と高畠地区では段差があり、地形からも高畠地区には東殿Ⅲ遺跡は広がっていないと考えられる。
6. 東殿Ⅳ遺跡は、古代を主体とし中世期まで続く集落跡である。古代期の遺物は、遺跡中央南寄りで多く出土した。走跡など生活環境がうかがえる遺構はあまり確認できなかった。中世の遺構も、溝、ピットなどを確認したが集落を形成するまでのものではなかった。
7. 試掘調査による遺跡範囲図は第9図、各遺跡の詳細は、第3表のとおりである。北山田南部地区を全体でみると、縄文時代についてはまとまりはないものの、徳成、東殿Ⅲ遺跡で遺物包含層、遺構を確認した。古墳時代には、事業区内の中央部で遺構、遺物があり、古代では事業区の中央部から南側にかけての広範囲で集落が広がっていることがわかった。中世期においても、徳成Ⅱ、東殿、東殿Ⅱ、東殿Ⅲ、東殿Ⅳ遺跡で集落跡を確認した。事業区内では、山田川左岸の氾濫原、西側の段丘上、南側城端町との町境近辺を除くほぼ全域で遺跡の広がりを確認した。

(佐藤聖子・片山重紀・西村倫子)

第3表 遺跡総括

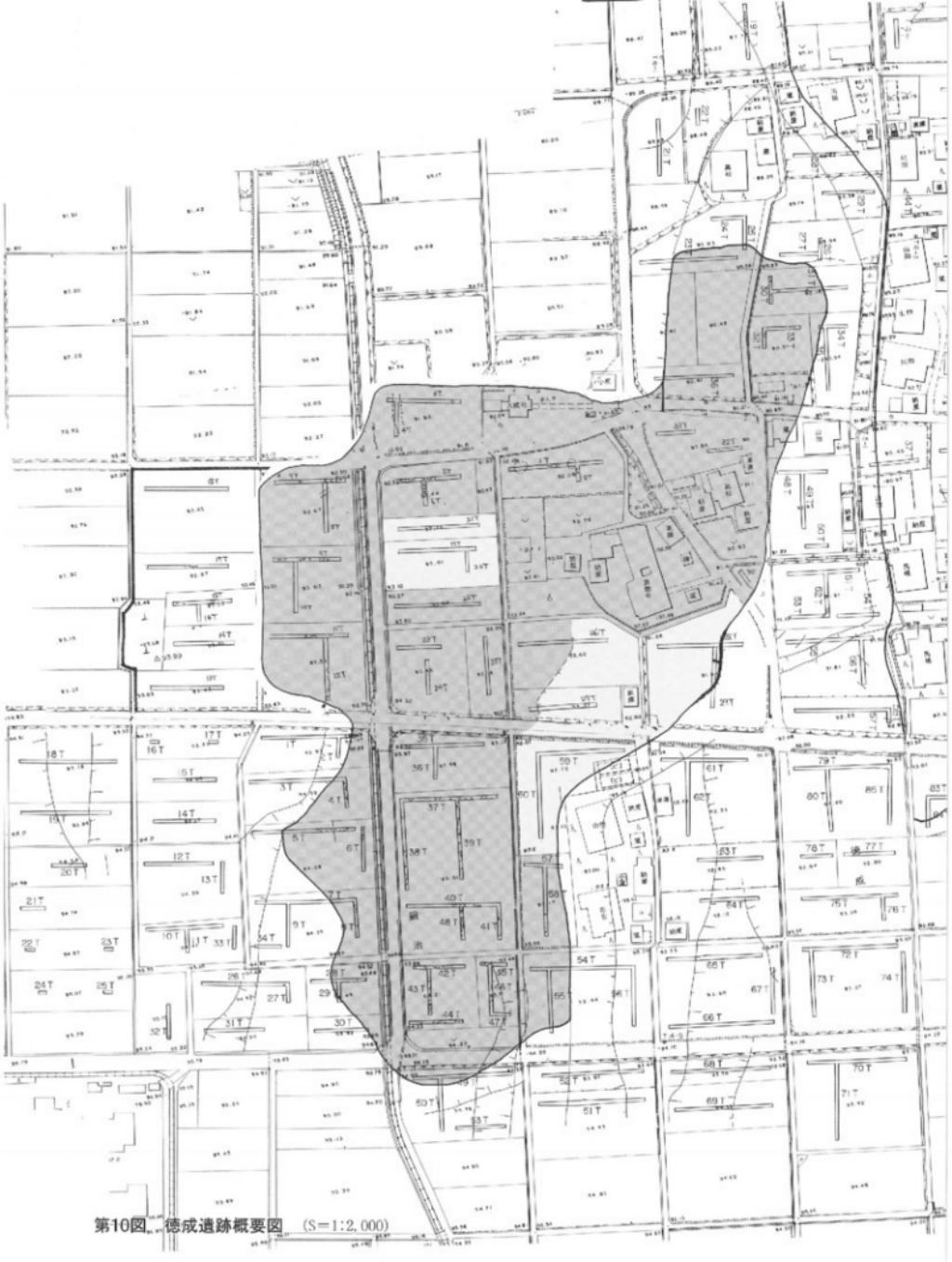
| 番号 | 遺跡名 | 時代 | 遺跡の種別 | 推定面積(m ²) | 備考 |
|----|-------|----------------|--------|-----------------------|----|
| 1 | 徳成遺跡 | 縄文(中・後期)、古代、中世 | 散布地・集落 | 50,000 | |
| 2 | 徳成Ⅱ遺跡 | 古墳、古代、中・近世 | 散布地・集落 | 91,000 | |
| 3 | 東殿遺跡 | 古代、中世 | 散布地・集落 | 57,000 | |
| 4 | 東殿Ⅱ遺跡 | 古代、中世 | 散布地・集落 | 50,000 | |
| 5 | 東殿Ⅲ遺跡 | 縄文(中・後期)、古代、中世 | 散布地・集落 | 33,000 | |
| 6 | 東殿Ⅳ遺跡 | 古代、中・近世 | 散布地 | 76,000 | |

参考文献

- 内田亜希子1997「越中における古代土師器の編年予察」『埋蔵文化財調査概要－平成8年度－』
 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 宇野隆夫1989『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』
- 宇野隆大1991『律令社会の考古学的研究』
- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1996
 『梅原加賀賀遺跡、久戸遺跡、梅原安丸遺跡、田尻遺跡発掘調査報告』
- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『梅原胡摩堂遺跡(造構編)』
- 山海堂1995『技術者のための地形学入門』
- 北陸古代土器研究会1993『北陸古代土器研究第3号』
- 北陸古代土器研究会1994『北陸古代土器研究第4号』
- 北陸古代土器研究会1995『北陸古代土器研究第5号』
- 北陸古代土器研究会1996『北陸古代土器研究第6号』
- 北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第7号』
- 三島道子1998「第V章考察 3 五社遺跡古代後期の土師器の編年について」
 『五社遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 吉岡康鶴1991『日本海域の土器・陶磁[古代編]』六興出版
- 福光町教育委員会1995『富山県福光町 梅原落戸遺跡Ⅱ』
- 福光町教育委員会1995『富山県福光町 梅原胡摩堂遺跡Ⅱ』
- 福光町教育委員会1996『富山県福光町 梅原落戸遺跡Ⅲ』
- 医王山文化調査委員会『医王は語る』



第9図 北山田南部地区 試掘調査による遺跡範囲図 (S=1:5,000)



第10図 德成遺跡概要図 (S=1:2,000)



第11図 徳成II遺跡概要図 (S=1:2,000)

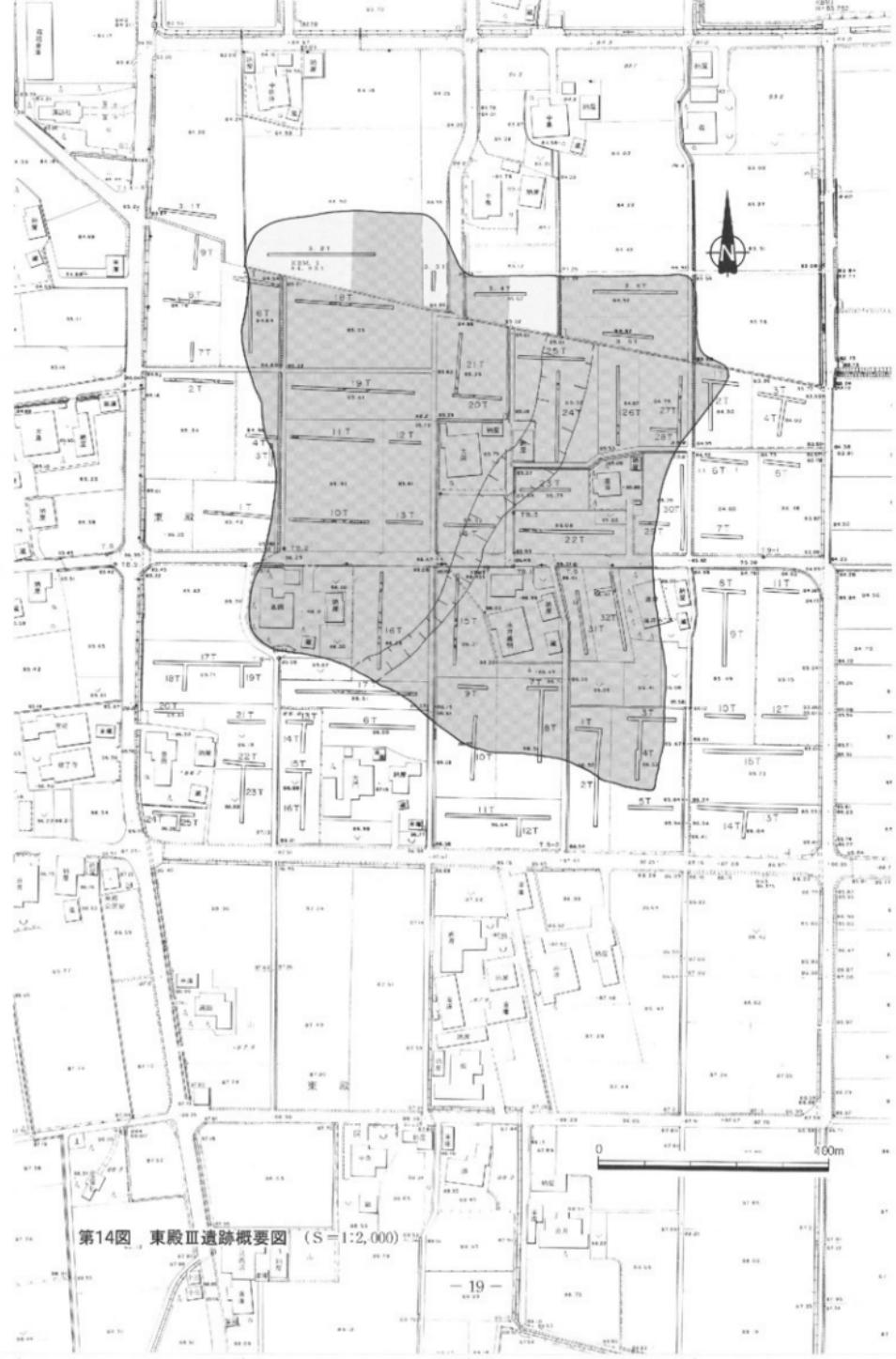
16*

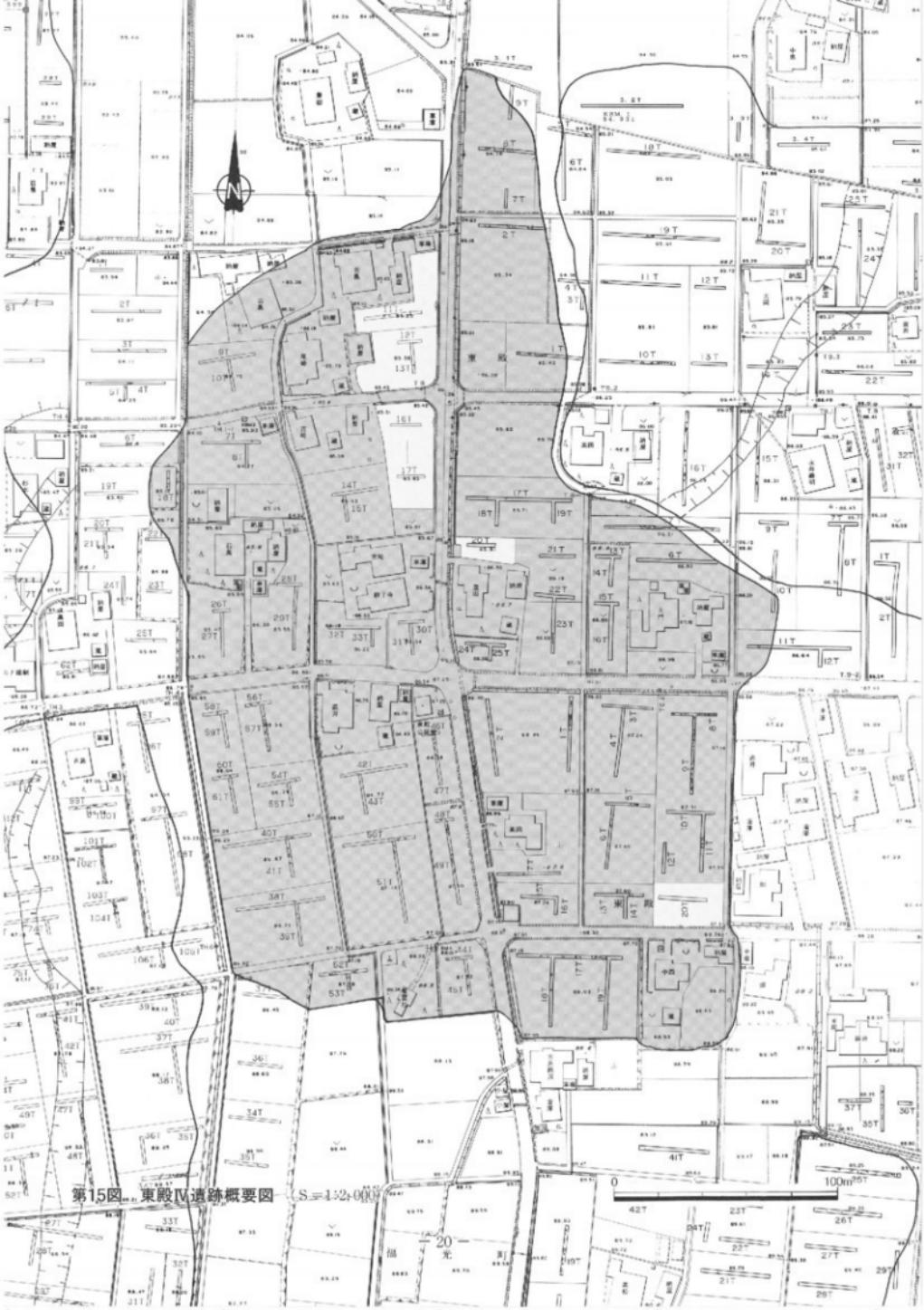


第12図 東殿遺跡概要図 (S=1:2,000)



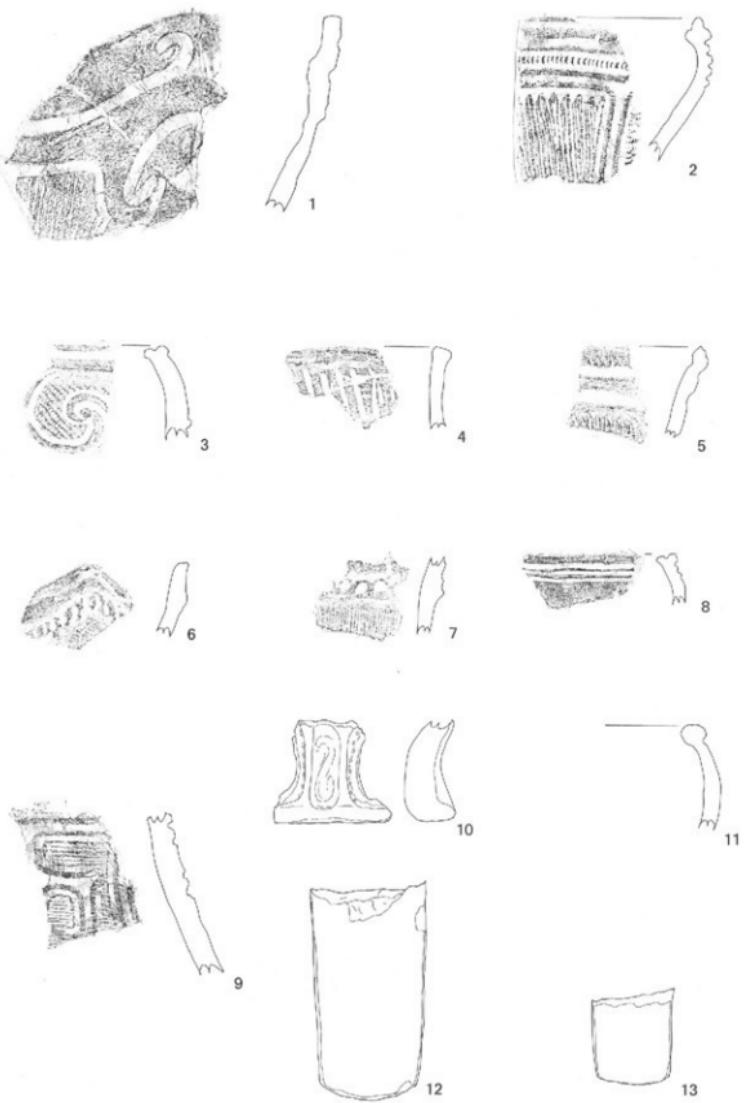
第13図 東殿II遺跡概要図 (S=1:2,000)





第15図 東殿IV遺跡概要図 S=1:2,000

光



第16図 德成遺跡の遺物(1) (S=1:3)





14



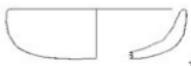
15



16



17



18



19



20



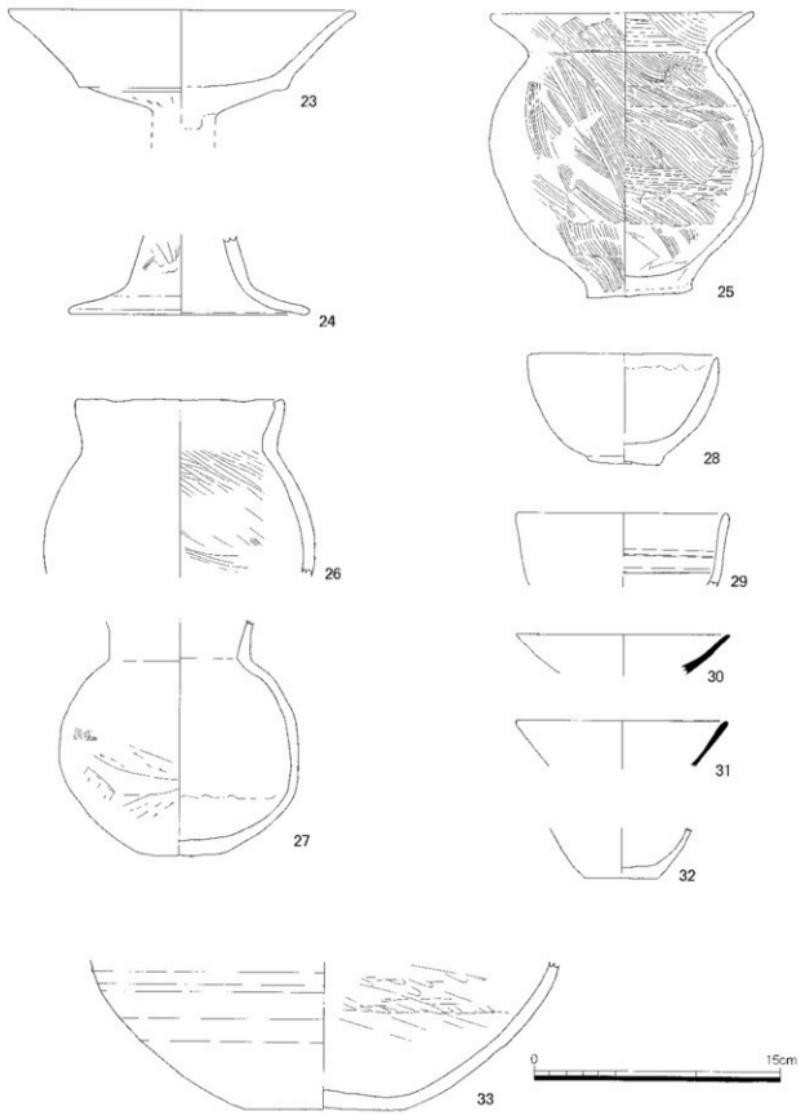
21



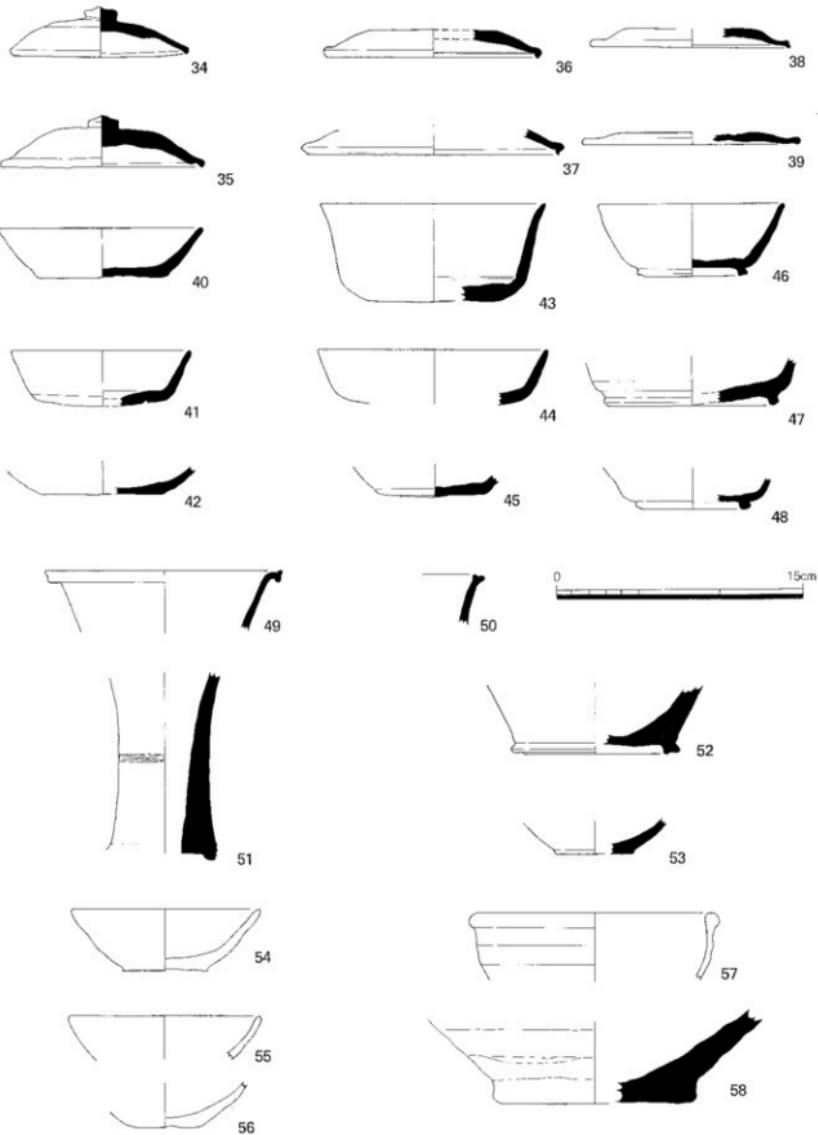
22



第17図 德成遺跡の遺物(2) (S=1:3)

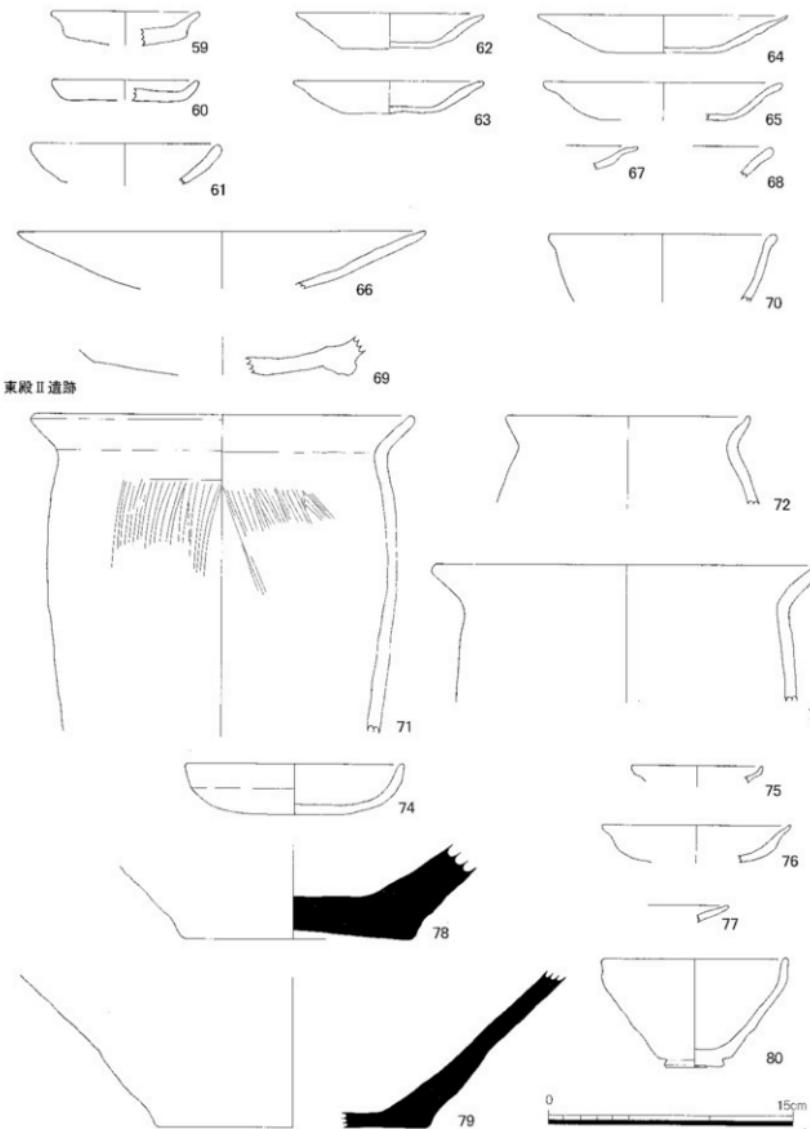


第18図 徳成II遺跡の遺物(1) (S=1:3)



第19図 德成Ⅱ遺跡の遺物(2) (S=1:3)

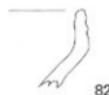
東殿遺跡



第20図 東殿遺跡・東殿II遺跡の遺物 (S=1:3)



81



82



83



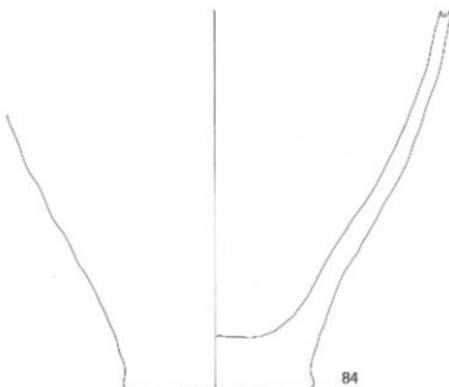
85



86



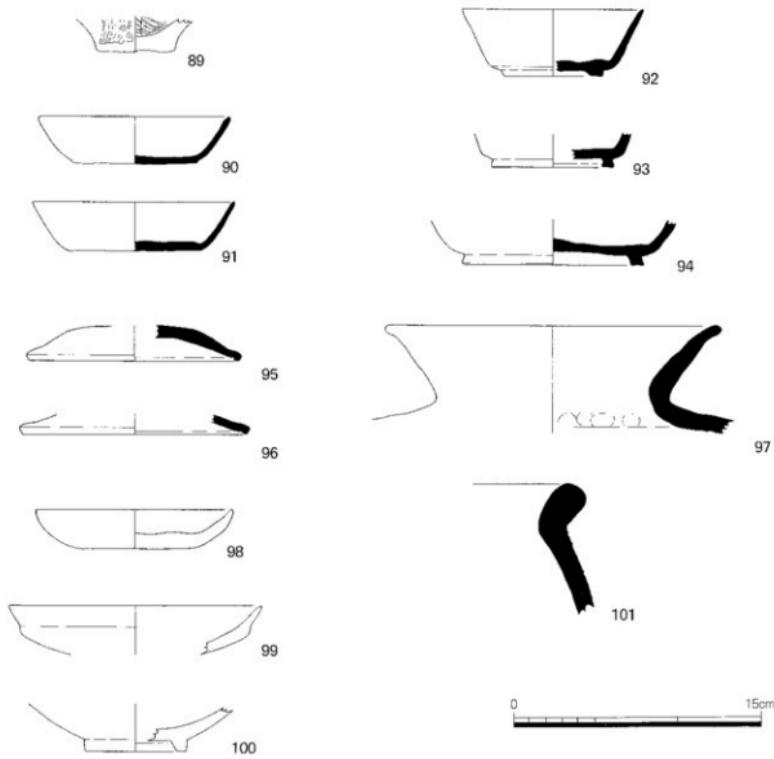
87



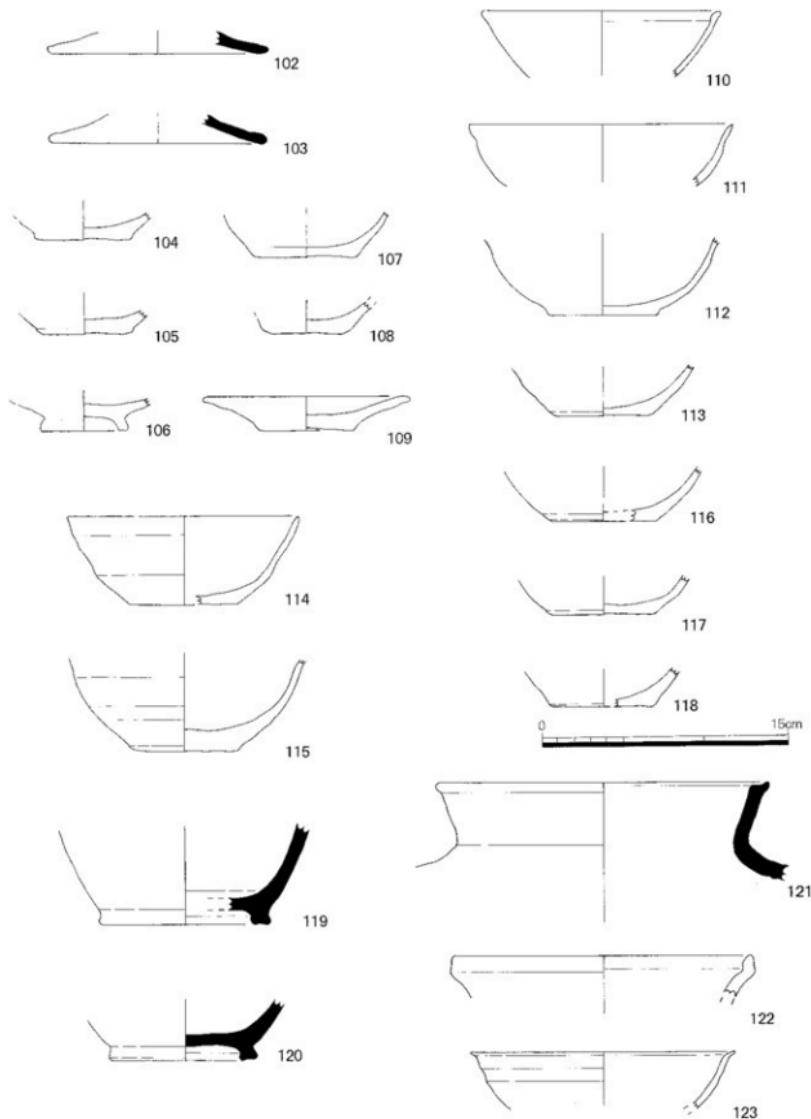
84



第21図 東殿Ⅲ遺跡の遺物(1) (S=1:3)



第22図 東殿III遺跡の遺物② (S=1:3)



第23図 東殿IV遺跡の遺物 (S=1:3)



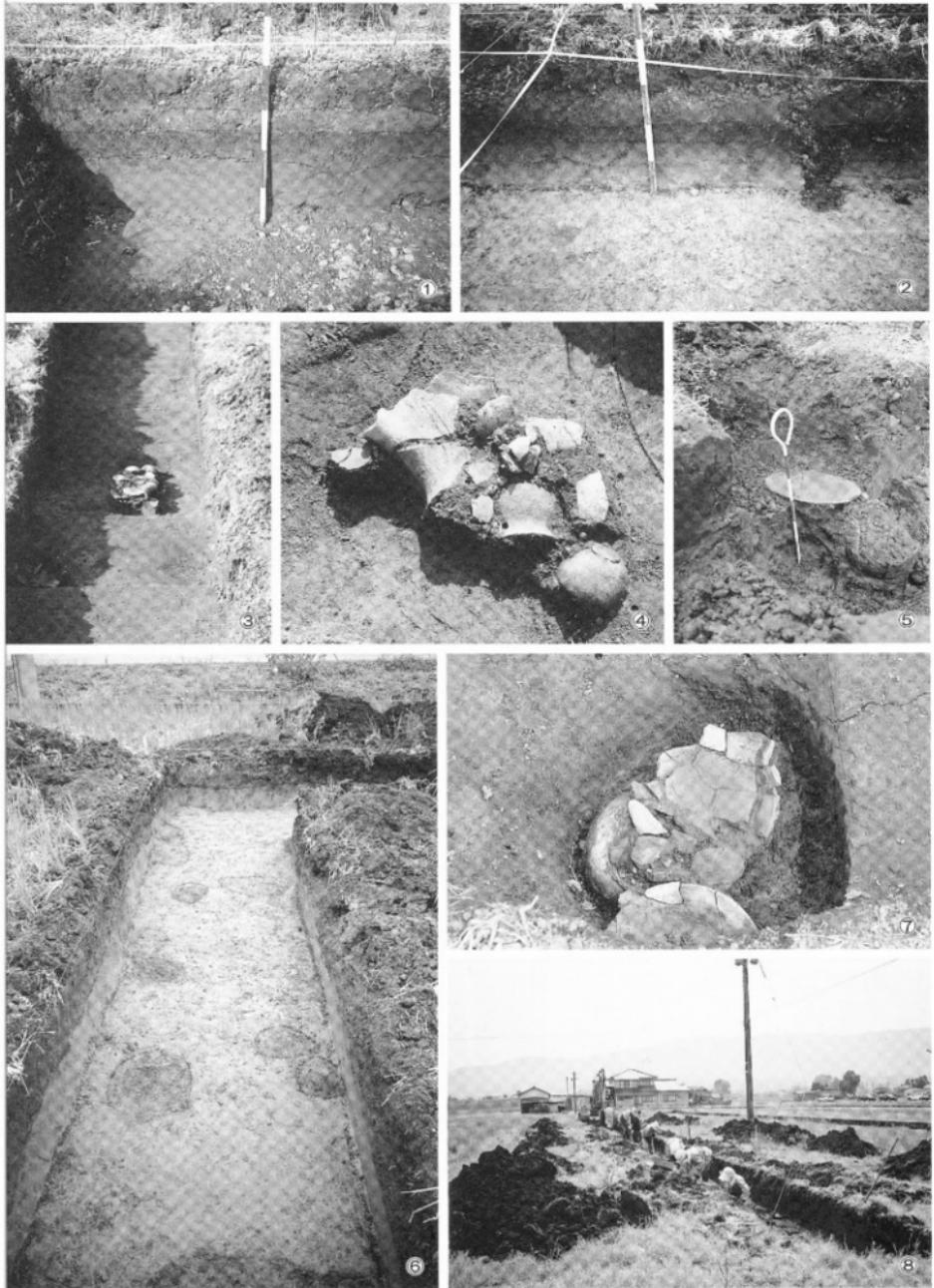
図版 1 德成遺跡

①8T (第一次)
⑤48T (第一次)

②36T (第一次)
⑥6T (第一次)

③10T (第一次)
⑦6T (第一次)

④8T (第一次)
⑧12T作業状況 (第一次)



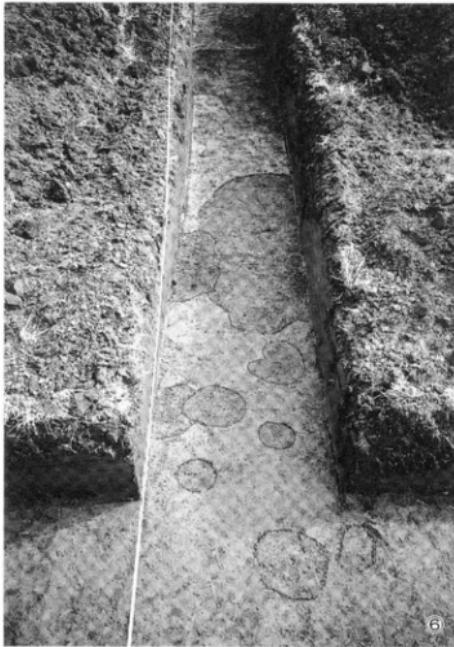
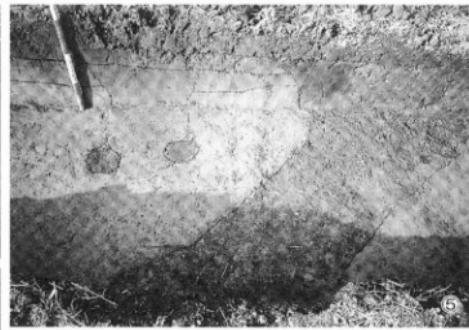
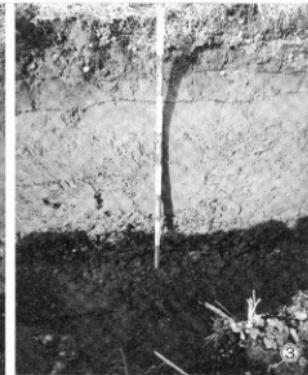
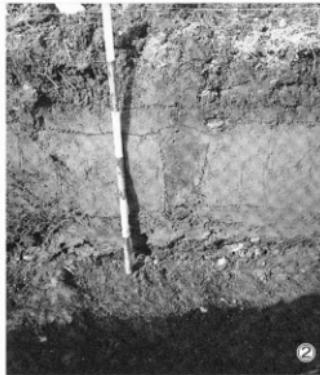
図版2 德成II遺跡(1)

①2T(第一次)
⑤5T(第一次)

②33T(第一次)
⑥41T(第一次)

③5T(第一次)
⑦5T(第一次)

④5T(第一次)
⑧6T(第一次) 作業状況



図版3 德成Ⅱ遺跡[2]

① 8T(第一次)
⑤ 51T(第一次)

② 4T(第一次)
⑥ 13T(第一次)

③ 4T(第一次)
⑦ 28T(第一次)

④ 46T(第一次)
⑧ 1T(第一次) 作業状況



図版4 東殿遺跡

①29T（第一次）
⑤1T

②37T（第一次）
⑥15T

③17T（第一次）
⑦町議会視察（第一次）

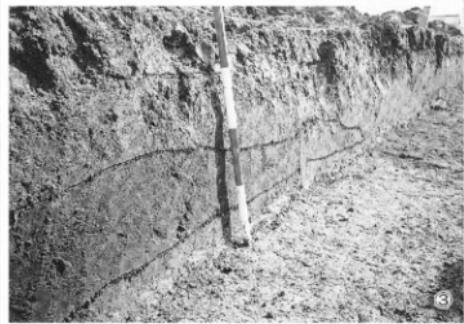
④49T



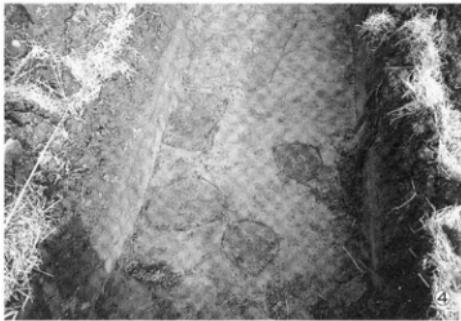
2



1



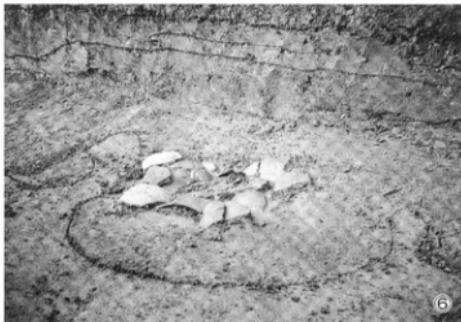
3



4



5



6



7

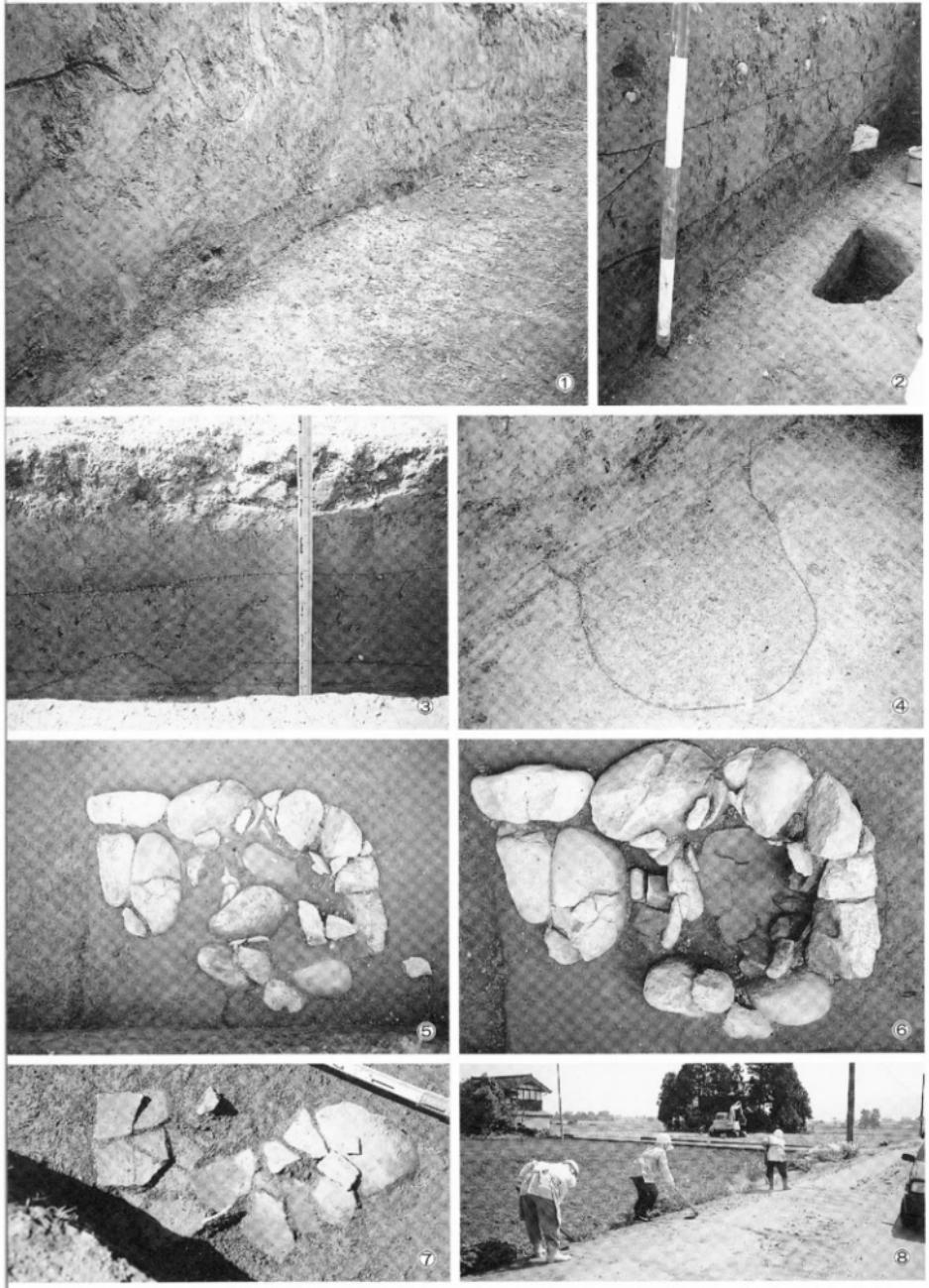
図版5 東殿II遺跡

①11T
⑤24T
(第一次)
(第二次)

②2T
⑥12T
(第一次)
(第二次)

③4T
⑦12T
(第二次)
(第一次)

④11T
(第一次)



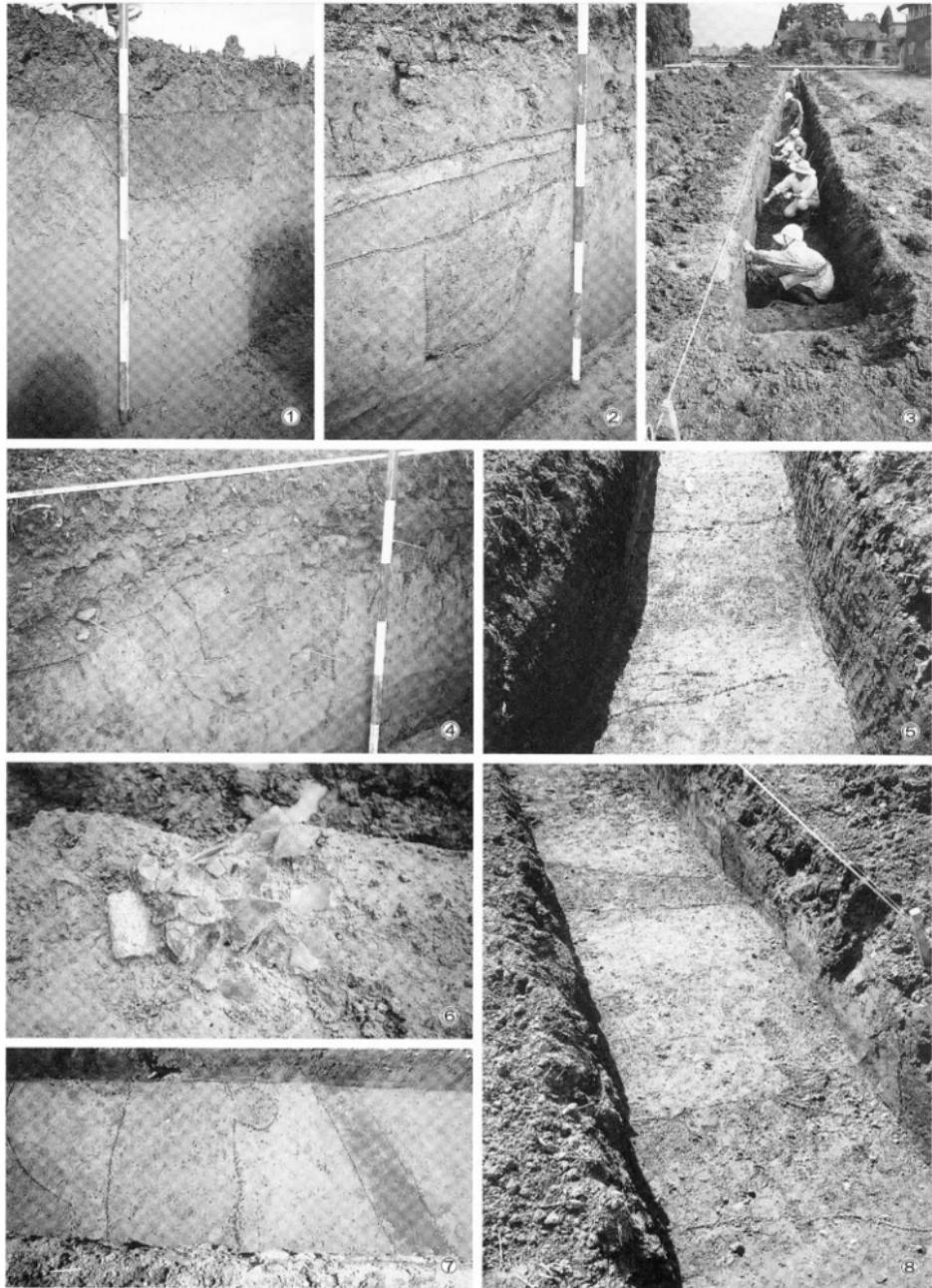
図版6 東殿III遺跡(1)

①10T
⑤32T-1

②32T
⑥32T

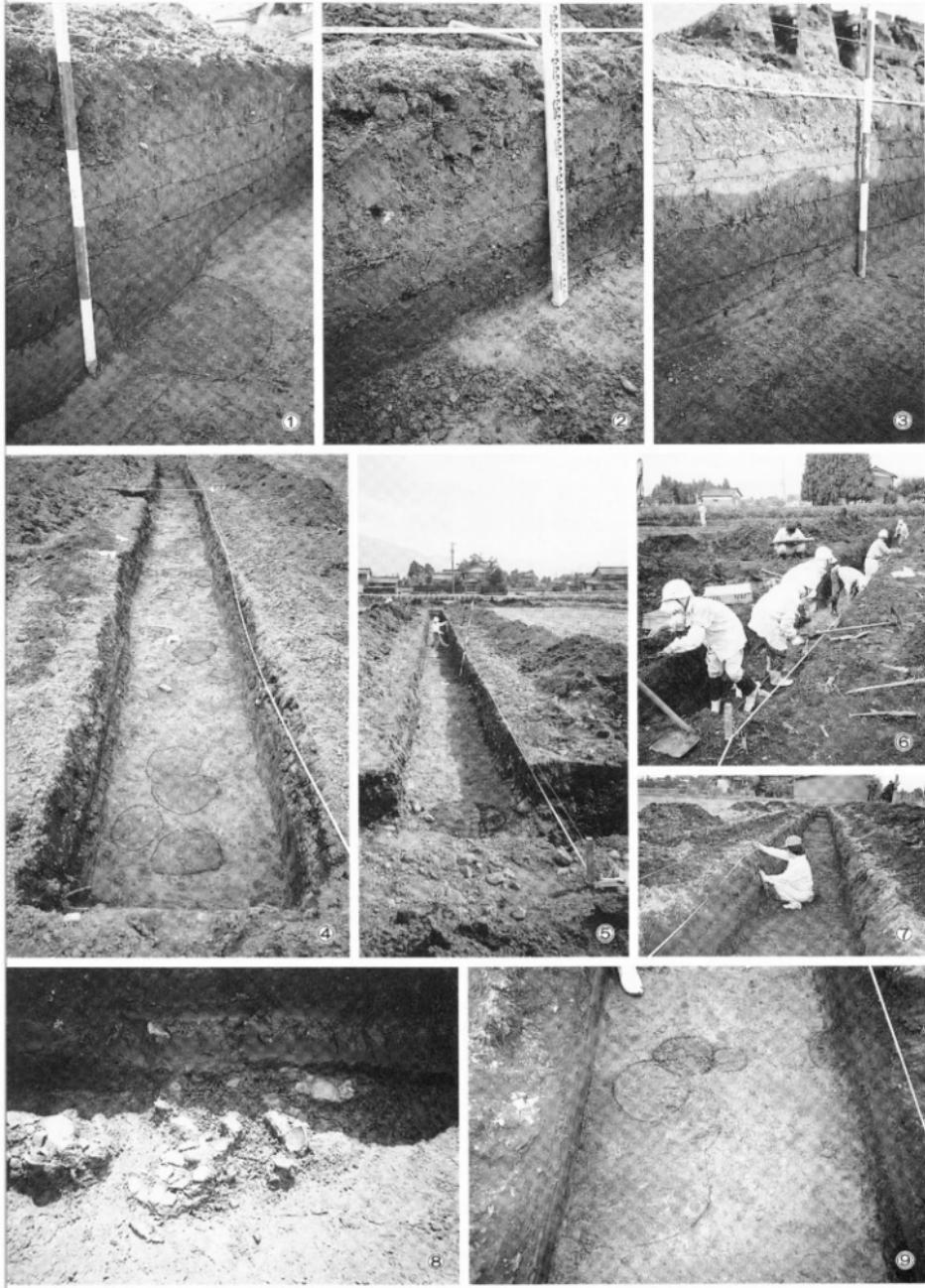
③32T-1
⑦32T-1

④32T
⑧作業状況



図版7 東殿III遺跡(2)

| | | | |
|------------|--------------|------------------|-------------|
| ①7T ⑤2T | ②19T ⑥19T | ③24T 作業状況 ⑦1T | ④16T ⑧8T |
|------------|--------------|------------------|-------------|



図版8 東殿IV遺跡

①9T
⑤10T

②1T
⑥作業状況

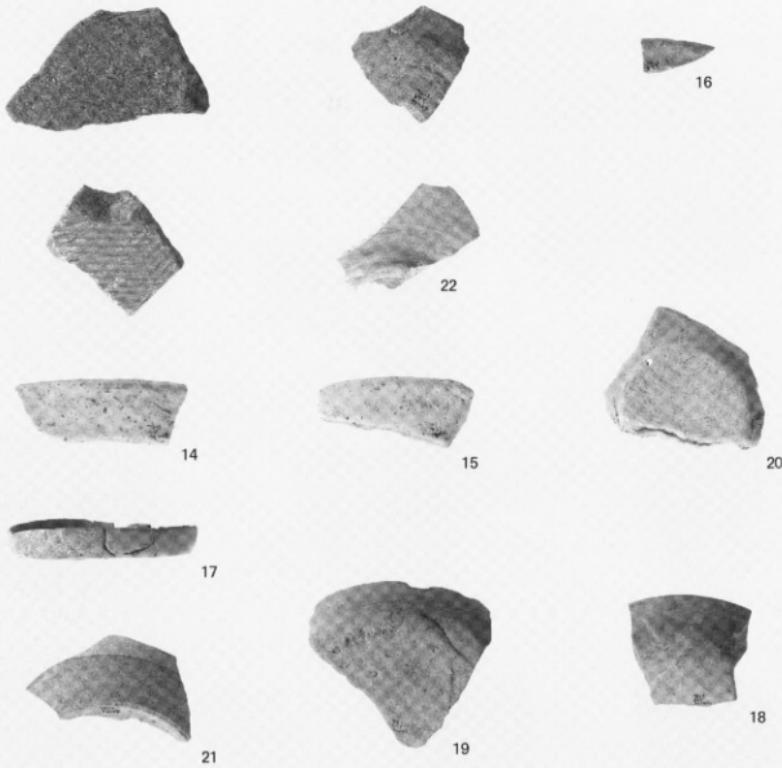
③11T
⑦記録作業

④8T
⑧10T

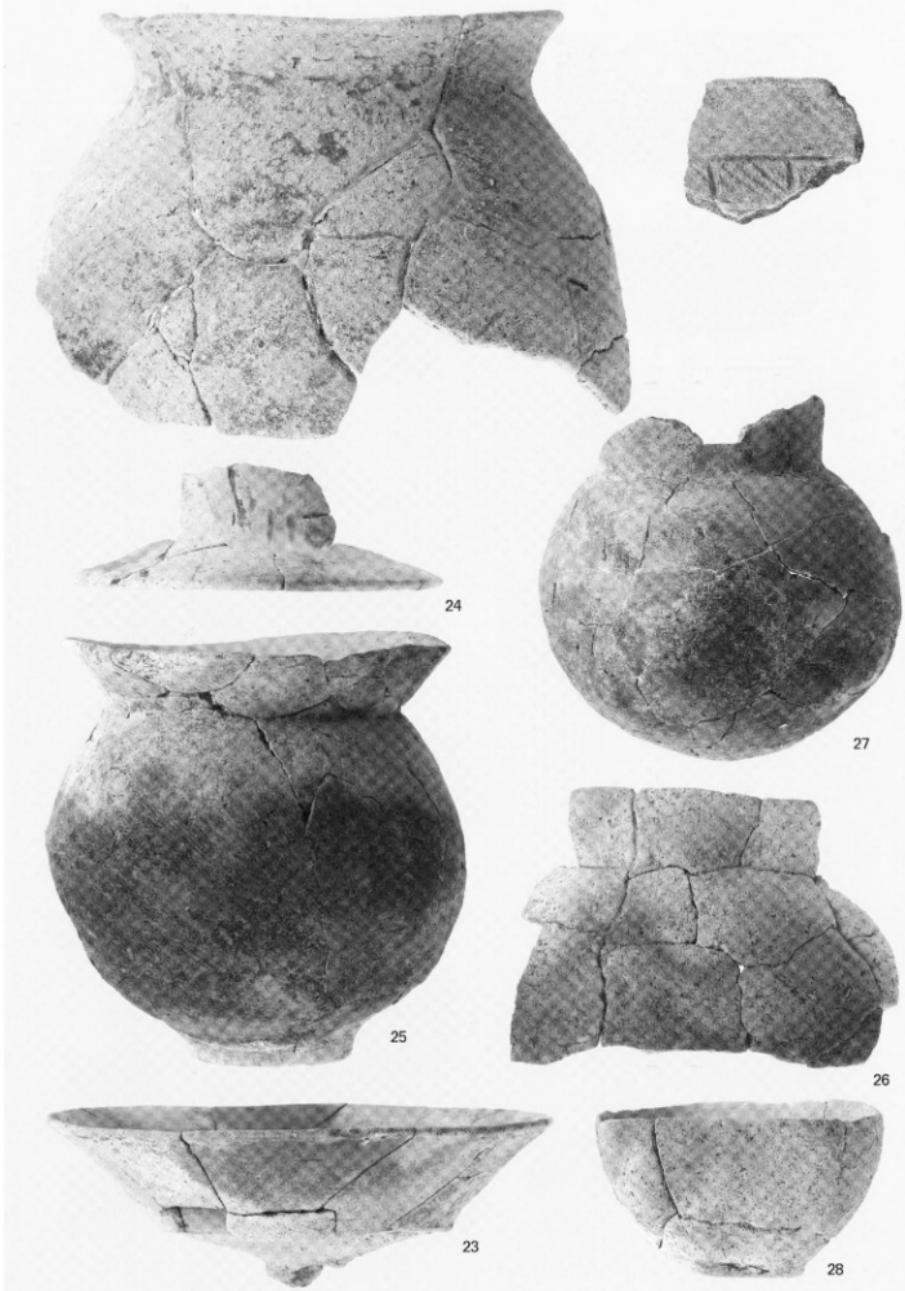
⑨1T



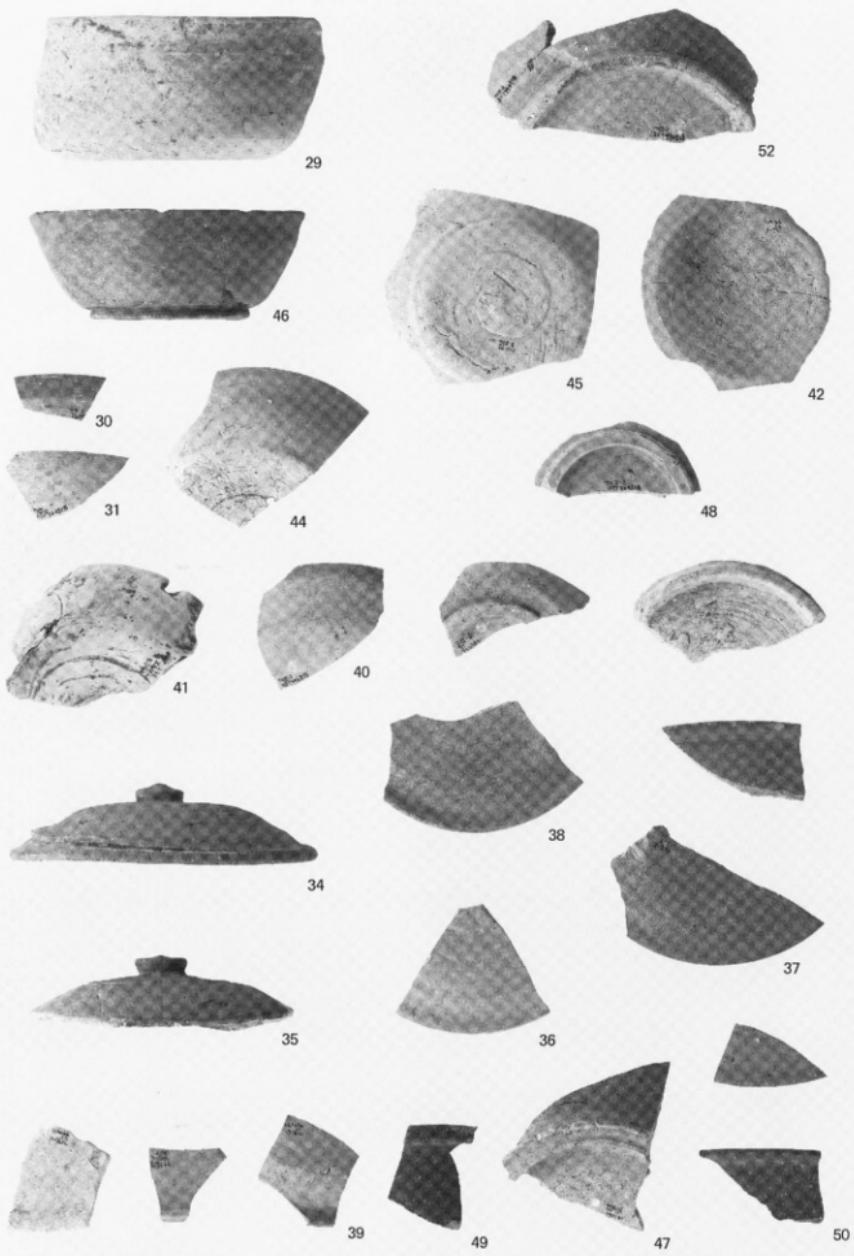
図版9 德成遺跡の遺物(1) (S=1:2)



図版10 德成遺跡の遺物(2) (S=1:2)



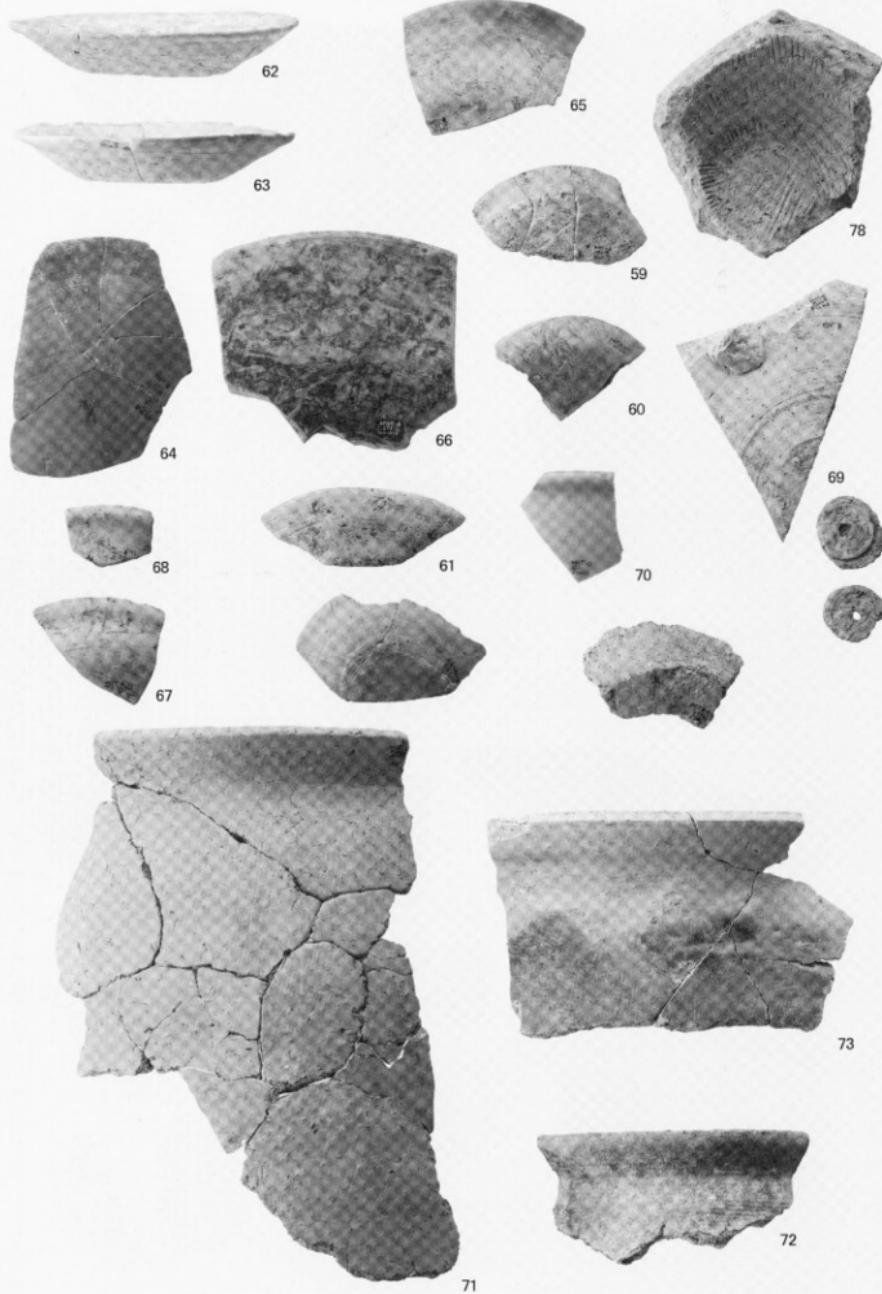
図版11 德成II遺跡の遺物(1) (S=1:2)



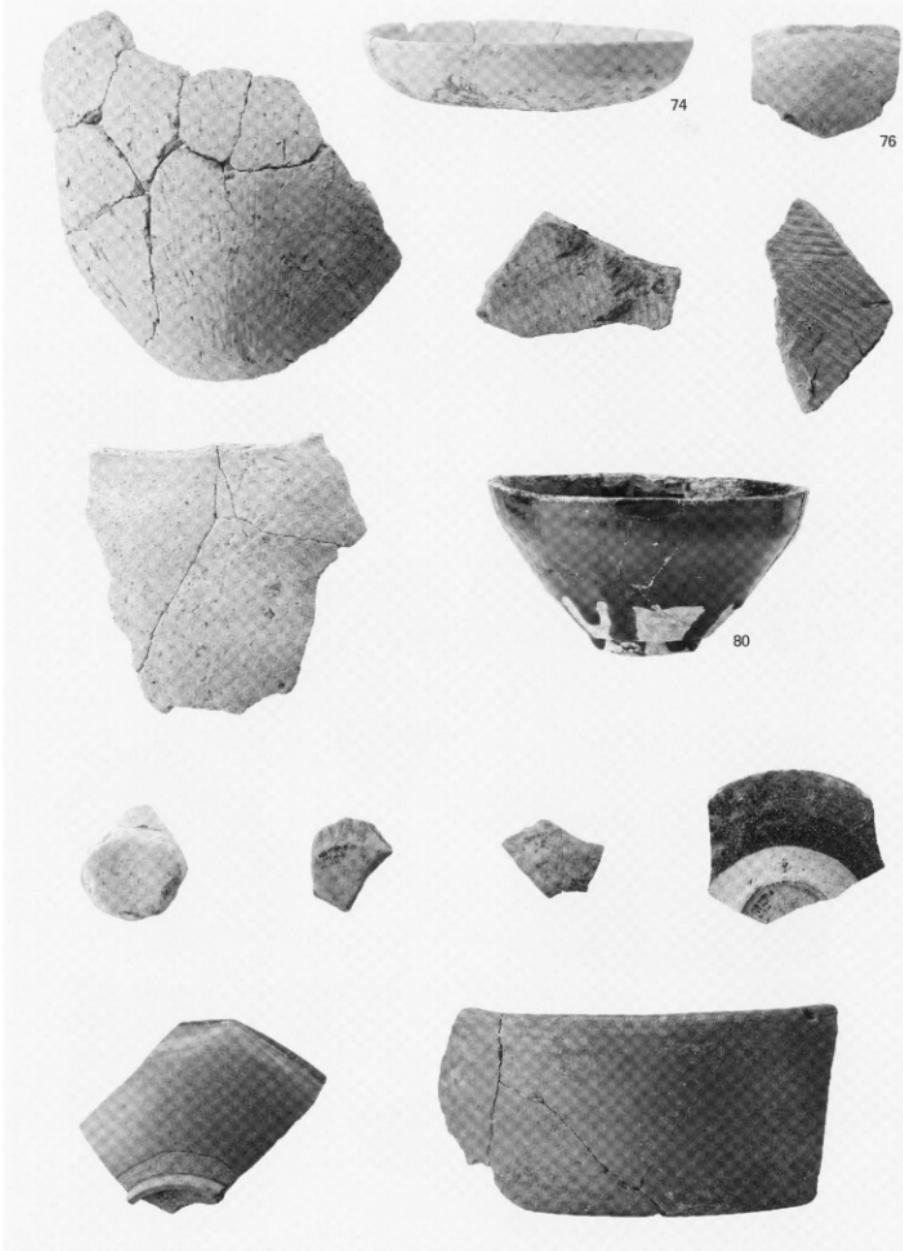
図版12 德成Ⅱ遺跡の遺物(2) (S=1:2)



図版13 德成II遺跡の遺物(3) (S=1:2)



図版14 東殿遺跡・東殿II遺跡の遺物 (S=1:2)
(67~77) (79~81)



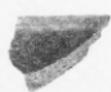
図版15 東殿II遺跡・東殿IV遺跡の遺物 (S=1:2)
(82~88)



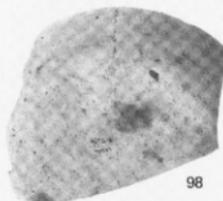
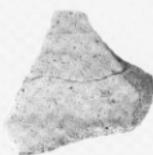
図版16 東殿Ⅲ遺跡の遺物(1) (S=1:2・81のみ1:3)



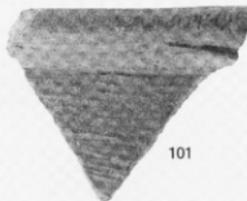
図版17 東殿III遺跡の遺物(2) (S=1:2)



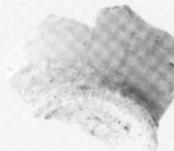
97



98



101



100

図版18 東殿III遺跡の遺物(3) (S=1:2)

報告書抄録

| | | | | | | |
|----------------|--|-------------|------|----------------|----------------|-------------------------|
| ふりがな | とやまけんふくみつまち けんえいひじょうせいひじょう (ないでいくせいか) にかかるまいぞうぶんかざいほうぞうちしくつちょうさほうこくしょ きたやまだなんぶちく | | | | | |
| 書名 | 富山県福光町 県営ほ場整備事業(扱い手育成型)に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書－北山田南部地区－ | | | | | |
| 編著者名 | 佐藤聖子 片田亞紀 西村倫子 | | | | | |
| 編集期間 | 福光町教育委員会 | | | | | |
| 所在地 | 〒939-1692 富山県西砺波郡福光町荒木1550 TEL (0763) 52-1111 | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2003年3月20日 | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査原因 |
| とくなり成 徳成 | 富山県 福光町徳成 | 16421 | 194 | 36度32分 20秒 | 136度54分 48秒 | |
| とくなりに 徳成Ⅱ | 福光町徳成 | 16421 | 274 | 36度32分 31秒 | 136度54分 53秒 | |
| ひがしとの 東殿 | 富山県 福光町東殿、徳成 | 16421 | 192 | 36度32分 40秒 | 136度54分 48秒 | 県営ほ場整備事業 (扱い手育成型) |
| ひがしとのに 東殿Ⅱ | 富山県 福光町東殿、宗守 | 16421 | 271 | 36度32分 50秒 | 136度54分 48秒 | |
| ひがしとのさん 東殿Ⅲ | 富山県 福光町東殿、高畠 | 16421 | 272 | 36度32分 45秒 | 136度54分 53秒 | |
| ひがしとのよん 東殿Ⅳ | 富山県 福光町東殿 | 16421 | 273 | 36度32分 42秒 | 136度54分 50秒 | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | | 主な遺構 | | 主な遺物 |
| 徳成 | 集落 | 縄文、古代、中世 | | 土坑、溝、ピット | | 縄文土器、土師器 中世土師器 |
| 徳成Ⅱ | 集落 | 古墳、古代、中世、近世 | | 土坑、溝、ピット | | 縄文土器、須恵器 中世土師器、珠洲青磁 |
| 東殿 | 集落、散布地 | 古代、中世 | | 上墨跡、上坑、溝、ピット | | 中世土師器、珠洲青磁 |
| 東殿Ⅱ | 集落、散布地 | 古代、中世 | | 土坑、溝、ピット | | 中世土師器、珠洲青磁 |
| 東殿Ⅲ | 集落、散布地 | 縄文、古代、中世 | | 焼上、炉跡、上坑、溝、ピット | | 縄文土器、打製石斧 中世土師器、珠洲青磁 |
| 東殿Ⅳ | 集落、散布地 | 古代、中世 | | 土坑、溝、ピット | | 古代土師器、須恵器 中世土師器、珠洲青磁 |

富山県福光町 県営ほ場整備事業(扱い手育成型) に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書 －北山田南部地区－

平成15年3月

編集 福光町教育委員会

発行 福光町教育委員会

印刷 南ナカダ印刷

